

## >インタラクティブセッション 1

開催形式:ライブ配信

総合診療医に欠かせないコミュニケーションスキルを手に入れる!

～バイタルトーク(VitalTalk):重度の疾患の持つ患者とのコミュニケーションスキル～  
(公募企画)

企画責任者	湯浅 美鈴(聖隷三方原病院 ホスピス科)
演 者	湯浅 美鈴(聖隷三方原病院 ホスピス科)
共同演者	植村 健司(ハワイ大学 老年医療・緩和医療科)
	大内 啓(ハーバード大学 救急部)
	大西 恵理子(オレゴン健康科学大学 家庭医療科)
	佐藤 菊枝(つくば SP 会)
	田中 素子(つくば SP 会)

### [開催の目的]

重度の疾患を持つ患者や家族に、病状や予後、治療の中止などを伝えることや、これからの治療のゴールを話し合うコミュニケーションスキルは、総合診療医にとって欠かせないものである。

不十分なコミュニケーションは、医師—患者—家族関係の悪化や、患者の望まない治療の継続、あるいは医療者の燃え尽きにもつながる。それらを防ぐため、約20年前米国の緩和医療医らは、バイタルトーク(VitalTalk)というコミュニケーショントレーニングを開発した。少人数のグループで模擬患者とのロールプレイを行い、教員や参加者からのフィードバックを受け、感情に留意した対話技術を効率的に習得することで、参加者のコミュニケーションの質の改善や、患者中心の医療の実践につながっている。

今回はバイタルトークの中心的なスキルをいくつか学んでいただき、明日からの臨床に役立てていただきたい。

### [企画概要]

本来は合計6時間のオンライン研修会ではあるが、その中から今回は、感情に対応するスキルであるNURSEと、治療ゴール決定のロードマップであるREMAPを紹介する。その後、グループに分かれ、使い方の実際を練習問題を使って学んでいただく。最後に、実際のオンライン研修会で行われる中心的ロールプレイ演習を、ボランティア医師と模擬患者に披露していただく。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
**日本プライマリ・ケア連合学会**  
学術大会  
プライマリ・ケア×ダイバシティ  
～多様性を受けいれ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)  
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)  
会場 オンライン開催  
大場 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

## ＜インタラクティブセッション 2＞

開催形式：ライブ配信

### 家庭医療専門研修・総合診療専門研修におけるビデオレビューのノウハウ (委員会企画)

**企画責任者** 横谷 省治(筑波大学医学医療系 寄附講座地域総合診療医学)  
**講師** 菅家 智史(福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座／  
総合診療医センター)  
藤原 和成(出雲家庭医療学センター 大曲診療所)  
日比野 将也(藤田医科大学 救急総合内科)  
横谷 省治(筑波大学医学医療系 地域総合診療医学／  
北茨城市民病院附属家庭医療センター)

#### [開催の目的]

当学会の新・家庭医療専門研修においても、日本専門医機構の総合診療専門研修においても、外来研修等でのビデオレビューは必須の研修方法の一つと位置づけられている。タブレット等の簡便な録画・再生機材の進歩で技術的なハードルは低くなった。しかし、どのようなタイミングで録画するか、どのように用いるのがより教育的か、また患者への倫理的配慮を万全にするためにはどうしたらよいか、まだまだ悩んでいる指導医・研修施設は多いことと思われる。そこで、ビデオレビューを研修に取り入れる上での諸課題について、知見を共有し、問題があればその解決策を探ることを目的に、このセッションを企画した。

#### [企画概要]

ビデオレビューを実施する上での諸課題を、1) 倫理、2) 準備、3) 実施と評価の3つの側面から検討する。ビデオレビューを積極的に行い高い教育効果を得ている事例を紹介するとともに、参加者のディスカッションを通じてノウハウの共有と問題の解決を目指す。倫理、準備、実施と評価の3側面は、例えば次のようなことが考えられる。

- 1) 倫理：患者の不利益を専攻医の教育効果に照らしてどう考えるべきか、実施にあたって配慮すべきこと、同意を得る方法など。
- 2) 準備：機材の選定、施設内での諸手続など。
- 3) 実施と評価：実際の流れ、どこを撮影するか、レビューの際の観察ポイント、評価の仕方、継続的に行う工夫など。

このセッションでは、理想論・観念論に陥ることなく、現実的な成果があがるよう運営を心がける。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
**日本プライマリ・ケア連合学会**  
学術大会  
プライマリ・ケア×ダイバシティ  
～多様性を受けいれ活かすケア～

● 会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)  
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)  
● 会場 オンライン開催  
● 大会 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

### オンライン版「糖尿病劇場」in PC 連合学会 ～多職種連携物語編～ (公募企画)

企画責任者	岡崎 研太郎(名古屋大学大学院医学系研究科 地域医療教育学)
ファシリテーター	岡崎 研太郎(名古屋大学大学院医学系研究科 地域医療教育学) 三澤 美和(大阪医科薬科大学 地域総合医療科学寄附講座)
コメンテーター	中山 法子(糖尿病ケアサポートオフィス)
参加者コメント担当	岡田 浩(京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野) 國枝 加誉(とくだ内科クリニック)

#### [開催の目的]

糖尿病はコモンディゼーズの一つですが、内服薬や注射薬だけではうまく行かないことも多く、患者さん自身のセルフケア行動が治療結果に大きな役割を果たすとされています。しかし、私達医療者はどのようにして糖尿病患者さんとかかわればよいのか、頭ではわかっているにもかかわらず実践するのは難しいという声も少なくありません。今回の糖尿病劇場では、ある糖尿病患者さんと様々な職種の医療者とのかかわりを描いた劇を観て、みなさんとディスカッションすることを計画しています。このセッションへの参加を通じて、みなさんがそれぞれの臨床現場で役立つ何らかのヒントを見つけられることを願っております。

#### [企画概要]

ようこそ、糖尿病劇場へ。糖尿病劇場は、日常の糖尿病診療や療養指導をモチーフとした演劇を観た後に、聴衆の皆さんとディスカッションをするという、参加型プログラムです。2009年以來、全国各地で70回以上の開催を重ね、「どうしておやつがやめられないんだろう?」「もうインスリン注射をするしかないのに」等々、患者と医療者のすれ違いを描いてきました。シナリオ作成から、患者役や医療者役、司会まで、みな演劇は素人の医療者仲間です。今回はPC連合学会ならではの多様な参加者を想定し、患者さんや家族に加え、看護師、薬剤師、栄養士、医師など多彩な職種が登場するシナリオを準備してまいりました。加えて、糖尿病劇場初のオンライン開催です。私達の問いかけに対して、ぜひ、あれやこれやのコメントを、リアルタイムでお寄せ下さい。はてさて、どのような学びの場を作ることができるのか、スタッフ一同、大変楽しみにしております。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
**日本プライマリ・ケア連合学会**  
学術大会  
プライマリ・ケア×ダイバシティ  
～多様性を受けいれ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)  
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)  
会場 オンライン開催  
大場 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

## >インタラクティブセッション 4

開催形式:ライブ配信

### 医療で用いる「やさしい日本語」(公募企画)

企画責任者	武田 裕子(順天堂大学大学院医学研究科医学教育学)
企画・司会	武田 裕子(順天堂大学大学院医学研究科医学教育学)
ファシリテーター	石川 ひろの(帝京大学大学院公衆衛生学研究科) 新居 みどり(NPO 法人国際活動市民中心(CINGA))
記 録	有賀 麻輝江(順天堂大学大学院医学研究科博士課程)
講 義	岩田 一成(聖心女子大学現代教養学部日本語日本文学科)

#### [開催の目的]

本WSは、外国人患者さんにも伝わりやすい「やさしい日本語」を医療者が知り、広めていただくために開催します。「やさしい日本語」は、阪神淡路大震災をきっかけに注目され広まりました。一文を短く、オノマトペを使わないなど、ちょっとしたコツで話せるようになります。今や、日本に住む在留外国人は300万人近くに上りますが、言葉の壁は医療機関へのアクセスを困難にしています。外国人診療＝英語と考えられがちですが、実際は「やさしい日本語」なら理解できる方は8割を超えます(英語は4割程度)。

「やさしい日本語」は、また、高齢者や障害のある方、子どもたちなど、言葉の理解や聞こえに不安のある方々にも伝わりやすくできています。医療現場のコミュニケーション力向上と共に、困難を抱える方々への理解を深めるきっかけにもなります。

#### [企画概要]

「やさしい日本語」についてのミニレクチャーの後、小グループに分かれて、実際に一般的な日本語を「やさしい日本語」に変換する練習問題を行います。そして、日本語を母語としない方に模擬患者になっていただき、ロールプレイを体験します。これまで、同じ内容のワークショップをオンライン開催していますので、オンサイトとそれほど変わらないプログラムを提供できるかと思えます。時間的な制約がありますので、自主学修できる学修教材もあわせてご案内します。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
**日本プライマリ・ケア連合学会**  
学術大会  
プライマリ・ケア×ダイバシティ  
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)  
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)  
会場 オンライン開催  
大場 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

## ＜インタラクティブセッション 5

開催形式:ライブ配信

### リハビリテーション科医とプライマリ・ケア医コラボ企画 素人でも参加できる嚙下障害基本のキ(公募企画)

**企画責任者** 須田 万豊(慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室)  
**司会補助** 松浦 広昂(藤田医科大学リハビリテーション医学 I 講座/  
日本医科大学 千葉北総病院)  
原嶋 渉(伊勢原協同病院 リハビリテーション科)  
大野 洋平(国立障害者リハビリテーションセンター病院  
リハビリテーション科)  
成瀬 瞳(関西家庭医療学センター/金井病院)

#### [開催の目的]

体系的に学習し、かつ feedback されることが少ないリハビリテーション医学ですが、例年特に希望の多かった「嚙下」について、今回は「ベッドサイドの嚙下の診かた」に的を絞り、初学者に理解・実践可能になってもらうことが目的です。

#### [企画概要]

活動も診るプライマリ・ケア医とは切っても切り離せない「嚙下」の話題。卒前卒後教育で嚙下を体系的に学習することは非常に難しいため、コメディカル頼みになってしまう方、独学で模索されている方も多いでしょう。今回は目標を「嚙下の診察所見と、対応する病的意味を理解する」「一人で嚙下の診察ができるようになる」とし、よりトピックに集中しやすいインタラクティブセッションで一つ一つポイントを勉強していきます。2019年度、100人を超える参加者を集め、事後アンケートも大々好評だった本セッションですが、より基礎的な内容を学びたいというご要望にお応えして、一から全て構成し直しました。在宅の一人ドクターも、病棟で多職種と連携できるドクターも、どちらも対象です。プライマリ・ケア医とリハビリテーション科医の人気コラボレーションシリーズ。ドクターに限らず、コメディカルも大歓迎!皆様のご参加をお待ちしております。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
**日本プライマリ・ケア連合学会**  
学術大会  
プライマリ・ケア×ダイバシティ  
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)  
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)  
会場 オンライン開催  
大場 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

## >インタラクティブセッション 6

開催形式:ライブ配信

### ダイバシティを阻む最大の敵?スティグマについて学ぶ(公募企画)

**企画責任者** 井村 春樹(洛和会音羽病院)  
**演 者** 水本 潤希(東京大学大学院医学教育国際研究センター  
医学教育学部門)  
原田 侑典(獨協医科大学 総合診療科)  
幌 沙小里(勤医協札幌病院 3階1病棟)  
芦野 朱(日本医療福祉生活協同組合連合会  
家庭医療学開発センター(CFMD))  
大高 由美(獨協医科大学病院 総合診療医学)

#### [開催の目的]

プライマリケアの医療現場に従事していると様々な方を診療する機会があります。日常診療の中で、“アルコール依存”、“糖尿病”、“生活保護”、“精神科通院歴”など言葉を聞いた時に、「陰性感情」を抱くことがあります。それは「スティグマ」が顕在化したものであり、医療従事者のプロフェッショナリズムへの挑戦が起こる場面でもあります。この「スティグマ」は厄介なもので知らず知らずのうちに診療している方に「ラベリング」をして、その方個人を見ない行為につながりかねません。参加者の方には事例を元に「社会的バイタルサイン(Social vital sign: SVS)」のプラットフォームである「HEALTH+P」を利用し、事例を多角的、多面的な検討の体験をしていただきます。そして、「スティグマ」をうまくコントロールし、患者のダイバシティを守る医療従事者としてプロフェッショナリズムを実践できるヒントを掴んでいただきます。

#### [企画概要]

本セッションでは模擬カンファレンスを行います。模擬カンファレンスにスタッフの一人として疑似参加いただき、「HEALTH+P」の枠組みで症例の分析をご自身にも行っていただきます。「HEALTH+P」による分析をつうじて、自身の「陰性感情」がどのように変化するのか体験いただきます。「スティグマ」が顕在化する状況は「プロフェッショナリズムへの挑戦」が起きている状況といえます。「プロフェッショナリズムへの挑戦」が起こっている状況をメタ認知しながら、「患者背景」を考えながら、カンファレンスを進めていく体験を通じて、患者を多角的に捉え、患者のダイバシティを守ることはどういうことが皆さんとともに考えることができたらと考えております。みなさまの参加を心よりお待ちしております。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
**日本プライマリ・ケア連合学会**  
**学術大会**  
プライマリ・ケア×ダイバシティ  
～多様性を受け入れ活かすケア～

● 会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)  
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)  
● 会場 オンライン開催  
● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>